

24NC で夢ふくらむ表紙絵を担当している遠渡 譲さんのページです。

「エンドくんの写生作品が、小学校（2年）の図画工作教科書の表紙作品候補に上がりましたが、惜しくも2番手で、採用にはなりませんでした！」顔を真っ赤にしながらも、天にも登るような気持ち。前週の鎖骨骨折のため石膏で固められた上半身の奥で心臓がバクバク鳴り響いていたのだった。この「事件」をキッカケに、少年は絵を描くという行為に特別な感情を抱くようになる。あれから幾年月、少年はイラストレーターとなり、書籍など幅広く印刷物の絵を描くようになった。そして、40年前にかなわなかった教科書の表紙絵も。

（★質問1 本の表紙絵を描く楽しさ、苦しさ、恐ろしさとは？）

ボクは企業相手の広告物の絵も多くかいていますので、比較的自由に作品性を出せるエディトリアルの仕事は楽しくてしょうがありません。本の「顔」である表紙を描くときには、まさに女性の顔を描くのと同じようにテンション上げ上げ状態になります。「これが俺の好きな顔なんだあ！みんな俺について来い〜っ！」てな感じで。影響力を考えると、怖くて頭がフリーズしちゃうこともありますから、これは考えないようにしています（笑）。

（★質問2 教科書の表紙絵と、雑誌や単行本の表紙絵に違いはありますか？）

ボクにとって教科書の表紙って聖地なんですよ。教科書の中にはけっこう落書きをしたのに、表紙だけはした覚えがない。手作りの紙カバーを付けて、勉強の始まりには手を合わせていたくらい（笑）。汚しちゃうパチが当たる、頭が良くならない、それくらいの感じ。だから、そんな表紙の絵を描いているような人は神様なんです。こともあろうに、その神に今ボクがなっちゃった。神の影響力は多大なので、これからジャージ姿で仕事するわけにいかなくなりました（笑）。



【近未来イラストレーター仕事図】